

まちづくり推進特別委員会行政視察報告

まちづくり推進特別委員会では、呉市と福井市を行政視察しました。
概要は以下のとおりです。

- (実施期間) 令和6年7月8日～令和6年7月10日
(視察都市) 呉市、福井市
(視察内容) 呉市：次世代モビリティ導入に向けた交通社会実験について
福井市：福井版ほこみち制度「ふくみち」について

〔呉市〕

呉市では、次世代モビリティ導入に向けた交通社会実験について説明を受けた。

呉駅周辺地域は、そごう呉店跡地の再生や駅前広場の老朽化・機能低下が課題であり、これらの課題解決及びまちなかの回遊性向上等を目的に、呉市では交通まちづくりとスマートシティの拠点形成を目指す「呉駅周辺地域総合開発」を推進している。地域全体を総合交通拠点として捉え、市全体の交通まちづくりの起点となる次世代モビリティにも対応した機能整備の推進という観点から、令和元年度から「次世代モビリティ導入に向けた交通社会実験」を実施している。

次世代モビリティ導入に向けた交通社会実験の取組として、令和元年度には、燃料電池バス（水素バス）であるトヨタ自動車「SORA」の走行実験を行い、4日間で市民など800人が乗車した。その後も、毎年交通社会実験を行っており、環境整備における課題の洗い出し等を行うとともに、市民の自動運転車両に対する受容性の向上が図られている。

委員からは、交通社会実験に使用した車体の選定理由や、交通社会実験の実施における警察等との連携をどのように行っているかなどについて質問が出された。



(呉市での視察風景)

〔福井市〕

福井市では、福井版ほこみち制度「ふくみち」について説明を受けた。

ほこみちとは、令和2年11月に施行された歩行者利便増進道路制度の通称であり、ほこみちとして指定された道路では、歩行者が安心・快適に通行や滞留ができる空間の構築が可能である。

福井市では、市街地再開発事業において、福井駅前中央大通りのリニューアルを行うにあたり、道路空間を活用したにぎわいの創出が必要であることから、ほこみち制度を導入した。

福井版ほこみち制度「ふくみち」は、「“みち”が“まち”を変えていく」をコンセプトに、令和3年度から道路空間の利活用計画の検討、社会実験の実施、アンケート調査やワークショップ等を行っており、令和6年3月からは、1年を通した日常使いの検証を目的として、「ふくみち」の本格運用が開始されている。

「ふくみち」の今後の展開として、占有者のサポートを行うことで日常使いへのチャレンジを行うとともに、いつでも誰でもくつろぐことができる空間づくりを目指し、時間帯等に応じたみちづかいの検討や、ほこみちエリアの拡大が予定されている。

委員からは、車椅子ユーザーなど障害がある方への配慮はどのようにしているか、キッチンカーなどを常時設置することで、特別感が薄れると考えるがどのように対処しているかなどの意見が出された。



(福井市での視察風景)